

発行元：ペレットクラブ

発行日：2025年11月30日

1. 木質バイオマス関連情報

■バス（株）（東京）、（株）川南バイオマス発電所（宮崎、以下「川南バイオマス社」）の発行済株式の26.7%を（株）森林パワーホールディングス（宮崎、以下「森林パワー社」）より取得し、持分法適用関連会社とすることについて決議したと発表。川南バイオマス社は宮崎県児湯郡川南町において「川南バイオマス発電所（定格出力5,750kW、発電量39,000kWh/年程度の予定）」を2026年11月頃開所を目指し、建設中。自社グループで新型バイオマス発電装置および発電所の開発や再生可能エネルギー事業に関する投資を行っているバスに、（株）クラフティア（本社・福岡、旧社名〔株〕九電工、2025年10月1日より社名変更）が、川南バイオマス社と森林パワー社の取り組みを紹介。バスは、川南バイオマス社との関係が新たに構築されることで、グループ会社、提携先も含めた国内のバイオマス発電事業の発展拡大とシナジー効果創出も期待できることから株式取得を決断するに至った。取得株式数は13,907株、取得価額は1億3,907万3,121円【バス（株）：2025/10/21】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3840/tdnet/2699826/00.pdf>

■秋田県能代市の官民連携組織「林業・再生可能エネルギー共生協議会」が11月20日、中国木材（株）能代工場（同市）敷地に建設される新バイオ発電所の燃料調達と基本計画案を審議。農山漁村再生可能エネルギー法に基づく「地域資源バイオマス発電設備」の認定を目指すもので、米代川流域等から135,000tの木質燃料を確保し工場内で活用する。新発電所は稼働中の自家発電設備（約2,000kW）に続く2基目で、出力9,990kW規模、2027年1月稼働を目指す【北羽新報社：2025/10/22】

<https://www.hokuu.co.jp/?p=33639>

■北九州市立大学の高巣幸二教授らが、改質した木質バイオマス燃焼灰を用い、CO₂排出量を60%以上削減する「超低炭素型コンクリート」の製造に成功。近年バイオマス発電施設が次々に稼働しており、木質バイオマス燃焼灰発生量は2026年度には80万t超まで増える見込み。一方、木質バイオマス燃焼灰

は重金属溶出の恐れなどから利用が進まず、ほとんどが埋め立て処分されている。石炭灰の改質技術やそれを用いた建築材料を開発してきた高巣教授はその知見を生かし、木質バイオマス燃焼灰中の未燃炭素や重金属を除去する改質装置を完成。改質した燃焼灰を原料にセメント不使用の超低炭素型コンクリートを開発し、バイオマス燃焼灰の有効活用を実現【日刊工業新聞：2025/10/24】

<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00764110>

■コカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）（東京）、製造工程で発生する茶かす・コーヒーかすといったバイオマス資源を活用し、クリーン電力および高純度CO₂を回収し、工場の製造動力として活用を目指す実証実験を開始。本取り組みでは、ライノラックス（株）（京都）が開発した「湿式ケミカルルーピング技術」を活用。京都大学の反応工学研究室で確立された技術で、従来のようにバイオマスを燃焼させることなく金属イオンを含む水溶液を循環させ、酸化・還元反応を繰り返し引き起こすことことで、高効率なエネルギー変換と高純度のCO₂生成を同時に実現する。従来技術と比べ2~4倍という優れた発電効率を達成し、また純度99.9%以上のCO₂を直接生成でき、副産物として利用可能。従来再利用が難しいとされていた湿潤原料（水分を多く含むもの）由来のバイオマスにも対応可能であり、工場の製造工程で発生する茶かすやコーヒーかすといったバイオマスからクリーン電力および99.9%の高純度CO₂を回収し、工場の製造動力として再利用を目指す。コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、2026年より自社京都工場の製造過程で発生する茶かす・コーヒーかすをライノラックス社の小規模実証機に連続投入し、1kW程度の発電および高純度CO₂回収における性能を評価・検証する予定【コカ・コーラボトラーズジャパン（株）：2025/10/28、ライノラックス（株）】

<https://www.ccbji.co.jp/news/detail.php?id=1766>

<https://rhinoflux.com/technology#technology>

■エア・ウォーター（株）（大阪）、製造時 CO₂排出を実質ゼロにした『グリーン産業ガス』の外販開始へ。グリーン産業ガス（酸素・窒素）は、同社グループが保有するバイオマス発電所から創出される環境価値と、エア・ウォーター・ガスプロダクツ（株）枚方工場で製造する液化酸素、液化窒素、液化アルゴンといった産業ガス製造時に発生する電力由来の CO₂をマスバランス方式でオフセットしたもの。今年4月よりグループ会社で使用開始するとともに、第三者機関である（一財）日本品質保証機構による検証の受審を進めてきた。10月16日に「『グリーン産業ガス』の根拠算定および管理は適切に行われている」との検証結果が得られたことから、第三者機関の検証に基づく客観的な信頼性を確保できたとして、外販を開始することに。従来の産業ガス製品の代替として『グリーン産業ガス』を使用することで、顧客の「スコープ3」排出量の低減に貢献できるとしている【エア・ウォーター（株）：2025/10/30、2025/01/09】

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2025102901.html>

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2025010901.html>

■経産省資源エネ庁、11月4日に第108回調達価格等算定委員会を開催。今後のFIT/FIP制度における価格設定のあり方について協議するとともに、バイオマス第8回入札（令和7年度）の結果について公表。今回の入札量（募集容量）は30MWで、募集は10月14日～27日まで実施したが、入札件数はゼロ。入札参加資格の審査のために提出された事業計画数の合計も0件だった。入札時は非公表で、入札実施後に公表された供給価格上限額は18.20円/kWh【経産省：2025/11/04】

<https://www.meti.go.jp/shingikai/santei/108.html>

■木質バイオマス輸送などで活躍する新明和工業（株）（兵庫）の「スライドデッキ」にドライバーの負担軽減や業務効率化に寄与する新オプション「シート式残量低減装置」が登場。スライドデッキは、床面に敷き詰めたスライドレールを前後に往復移動させることで、主に木質バイオマスなどの積荷を荷台を傾斜させることなく排出できるもの。新オプションの「シート式残量低減装置」は、スライドデッキの前壁に格納されたシートが積荷と一緒に床面を移動。通常排出しきれず残ってしまう積荷残量を90%以上（乾燥した木材チップの場合）低減することができ、スコップなどを使って積荷残量を荷台から降ろす作業

負担の軽減や作業時間の短縮を実現。また移動したシートはボタンひとつでウインチにより巻き取られ、前壁に格納できるだけでなく自動で固定され、排出時は自動解除されるため、固定・解除の操作も不要。万一ウインチ作動中に引っ掛けが発生した場合は自動停止し、装置や車両の損傷を防止する。2025年10月29日より発売開始【fullload web：2025/11/06、新明和工業（株）：2025/10/29】

<https://fullload.bestcarweb.jp/news/388310>

<https://www.shinmaywa.co.jp/products/truck/news/20251029-01.html>

■（株）エクサウィザーズ（東京）、中国電力（株）（広島）と共同で石炭火力発電所の燃料運用を高度化するAIシステムを開発。島根県浜田市にある中国電力三隅発電所（定格出力100万kW×2基）において本格運用を開始。同発電所では18基ある貯炭サイロの日々の受払・貯蔵状況を考慮した複雑な燃料運用計画を限られた熟練社員が担っており、またバイオマス燃料の混焼拡大が運用の複雑性を一層高めていた。そこで両社はこれら一連の計画業務をAIでシステム化し、複雑な計画業務を自動化・最適化することに。「炭質評価システム」は発電所の運転に係るビッグデータを学習しており、貯蔵されている複数の石炭品種とバイオマス燃料の詳細な特性を入力することで、燃料の最適なブレンドパターンを最大で約4,000通り提案。「石炭サイロ運用支援システム」では発電所の安定運転や効率的な燃料在庫管理に係るノウハウを蓄積。燃料在庫状況や燃料受入・消費（サイロからボイラへの払い出し）の予定情報を入力することで、「炭質評価システム」が提案したブレンドパターンの中から最適なパターンを選択し、数か月分の石炭の受入・消費に係る計画を策定。この2つのシステムが相互に連携し、発電所の燃料運用最適化を図る。中国電力は今後、外航船の配船計画策定を支援するAIシステムも構築する予定で、燃料調達の最適化を推進する【（株）エクサウィザーズ、中国電力（株）：2025/11/07】

<https://exawizards.com/archives/31130/>

<https://www.energia.co.jp/press/2025/16196.html>

■イーレックス（株）（東京）子会社のerec Yen Bai Biomass Power Co.,Ltd.が、ベトナム電力公社（EVN）子会社のPower Engineering Consulting Joint Stock Company 2（ベトナム、以下「PECC2」）との間でイエンバイ1バイオマス発電所のEPC契

約を締結。11月7日にEVN本社にてEPC契約締結式を実施。同発電所は2024年4月1日にベトナム政府が承認した「第8次国家電源開発計画(PDP8)」で優先度の高いプロジェクトとして位置づけられており、同年5月にはベトナム政府より投資登録証明書(IRC)を取得。同年10月に地鎮祭を執り行い、造成工事を進めてきた。PECC2との間ではこれまで同国のハウジヤンバイオマス発電所の開発を行い、発電所は2025年4月に運転。さらにその実績を踏まえ、同じく2025年4月にベトナムにおけるバイオマスエネルギーを活用した脱炭素の実現・エネルギー自給率の向上・安定電源供給・雇用増大・所得向上のための相互協力を目的とし、業務提携契約を締結。このような背景からプラントのEPC業者をPECC2に決定した。イエンバイ1バイオマス発電所は同国のラオカイ省(旧イエンバイ省)に建設し、発電出力50MW。木質残渣約50万t/年を燃料とし、2027年度末運転予定【イーレックス(株):2025/11/07】

<https://www.erek.co.jp/news/information/3017/>

■(株)ダイハツメタル(本社・兵庫)、ダイハツ工業(株)(大阪)と共同で「バイオブリケット」の製造技術を開発・確立し、ダイハツメタル出雲工場の鋳造設備であるキュポラ溶解炉(以下、「キュポラ」)での使用を開始。両社は2035年工場の生産カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一つとして、鋳造工程からのCO₂排出量削減に取り組んでいる。ダイハツメタルはキュポラで鉄を溶かす際に排出されるCO₂削減を目的に、2023年3月に有志企業・団体で構成された「キュポラCN共創ワーキンググループ」に参加。2024年からは石炭由来のコークスに代わるバイオマス燃料として、地域資源である廃菌床やバークを使用したバイオブリケットの研究を共同で実施。ワーキンググループの一員である(株)コヤマが確立した技術を用い、製造工場を立ち上げた。また地元の自治体や企業と連携し、資源調達からバイオマス燃料の製造と活用までを一気通貫で行うエネルギー循環モデルを構築。ダイハツメタルでは今後バイオブリケットの置き換え率を段階的に引き上げながら、将来的には多様なバイオマス燃料の活用にも取り組み、2035年には置換率100%(コークス不使用)を目指すとしている【ダイハツ工業(株):2025/11/13】

https://www.daihatsu.com/jp/news/2025/20251113-1.html?_gl=1*fi4rlc*_ga*NzM1MzlxE0LjE3NjQyMzUyNzg.*_ga_ZLVTYZQHWE*czE3NjQyMzUyNzgkbzEkZzAkDE3NjQyMzUyNzg_kajYwJGwwJGgw

■NEDO、2025年度第2回「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に係る実施体制の決定について公表。公募は9月8日~10月9日まで実施。「研究開発項目[1]:新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業(補助事業)」(事業期間:2025~2028年度)に1件、「研究開発項目[2]:木質バイオマス燃料(チップ、ペレット)の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業(補助事業)」(事業期間:2025~2027年度)に2件応募があった。審査の結果、研究開発項目[1]は自然応用科学(株)(愛知)の「岐阜県循環型エネルギーの森実現へ向けた研究開発」に、研究開発項目[2]は金山町森林組合(山形)の「地域の森林経営に基づいた木質バイオマスの安定供給体制の研究開発」に決定【NEDO:2025/11/17】

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100436.html

■三井金属(株)(東京)、製錬拠点で使用している石炭の代替を見据え、バイオマス燃料の自社製造に関する技術検討を開始。木材などの原料の炭化プロセスに関する実証試験に向けた取り組みなどに着手。併せて、外部からの新規バイオマス原料探索や供給先確保の取り組みも推進する。2030年度以降にバイオマス燃料への代替の実操業移行を計画【鉄鋼新聞:2025/11/19】

<https://www.japanmetaldaily.com/articles/-/249567>

■ブラジル北部の都市ベレンで開かれた国連気候変動枠組み条約第30回締約国会議(COP30)が11月22日に閉幕。今年は「パリ協定」が採択されて10年目の節目にあたるが、世界の平均気温は史上最高を更新し続けており、2024年の世界の平均気温は産業革命前よりもすでに1.5°Cを超えて上昇している。ブラジルのルラ大統領は11月10日の開会式のスピーチで「気候変動は未来の脅威でなく、現在の悲劇」とし、気候変動の影響で世界各地の災害が激甚化し、多くの犠牲を生んでしまっている事実を強調。気候対策をめぐっては誤情報が多く流布されているが、科学に基づいた対策の重要性を指摘し、COP30を「真実のCOP」、そして「実行のCOP」にすると明言。しかし成果は乏しく、災害対策など気候変動の影響に対する「適応資金」については2035年までに3倍にするとの努力目標を盛り込んだが、交渉の終盤に論点となった化石燃料からの転換に向けた行程表の策定は意見がまとまらず、文言を入れなかつた

【日本経済新聞：2025/11/23、HUFFPOST：2025/11/11、電気新聞：2025/11/26】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQQUA21DIS0R21C25A100000/>

https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_6912acc0e4b0f8fc6ee3cd05?origin=article-related-nonline

<https://www.denkishimbun.com/archives/398705>

2. ペレット関連情報

■ローカルエナジーシステム（株）（大阪）、経産省令和6年度補正予算「グローバルサウス未来志向型共創等事業（大型実証ASEAN加盟国）」第一回公募において、「ブラックペレットの安定生産と市場形成・サプライチェーン構築実証事業」が採択されたと発表。同社は2023年5月より、国産バーク材を原料とするブラックバークペレット（BBP）の製造・販売事業に着手しており、採択事業ではベトナム社会主義共和国を拠点にブラックペレット（BP）を製造する。経産省の支援により、同国の事業スケール化の早期実現、事業見通しの向上、需要者との安定的な取引関係の構築、ベトナム現地政府との関係強化などが円滑になり、2029年2月までにBPの供給量14万t/年やCO₂排出削減量22.4万t/年の達成など、採択事業の着実な実施が見込まれるとしている。製造したBPは販売し、石炭火力発電所におけるCO₂排出量削減や脱炭素、電力安定供給といった社会の諸課題の解決に貢献し、BPの市場形成とサプライチェーン構築を目指す【ローカルエナジーシステム（株）：2025/10/21】

<https://localenesys.co.jp/news/%e7%b5%8c%e6%b8%88%e7%94%a3%e6%a5%ad%e7%9c%81%e3%81%ab%e3%82%88%e3%82%8b%e3%82%b0%e3%83%ad%e3%83%bc%e3%83%90%e3%83%ab%e3%82%b5%e3%82%a6%e3%82%b9%e6%9c%aa%e6%9d%a5%e5%bf%97%e5%90%91%e5%9e%8b%e5%85%b1/>

■（株）レノバ（東京）、唐津バイオマス発電所（佐賀）が9月27日付で営業運転を開始したことを受け、運転中の設備容量の合計が2025年9月末時点で1GWを達成。2014年2月に茨城県潮来市で運転を開始した水郷潮来ソーラー（設備容量15.3MW）以降、同社が手掛けてきた再生可能エネルギー発電所における設備容量の合計で、正確には2025年9月末時点で1,042MW。これは同社の再生可能エネルギー電源だけで発電電力量が、一般家庭約100万世帯分の年間電力消費量に相当する約40億kWh/年となる見込みであることを意味する。唐津バイオマス発電所は木質ペレット、PKSを燃料とし、設備容量

49.9MW、想定年間発電量は約35,000万kWh（一般家庭約11万世帯の年間使用電力量に相当）【（株）レノバ：2025/10/27】
https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20251027_01_PRESS.pdf

■東日本旅客鉄道（株）（東京、以下「JR東日本」）と大阪ガス（株）（大阪）が、大阪ガスの代理店であるDaigasエナジー（株）（大阪）を通じて10月28日にJR東日本初となるバーチャルPPA契約を締結。バーチャルPPA契約とは、再生可能エネルギー発電所の環境価値のみを取得するための契約のことです、実際に使用する電力は既存の小売契約により小売電気事業者から供給される。同契約は（株）エネウィル（東京）、大阪ガス、SMFLみらいパートナーズ（株）（東京）が出資する和歌山御坊バイオマス発電合同会社（東京）が、FIT制度に基づき運営している「和歌山御坊バイオマス発電所」をFIP制度に移行し、同発電所で発電される年間約3.5億kWh分の環境価値を、大阪ガスが非FIT非化石証書としてJR東日本に提供するもの。同発電所は木質ペレットとPKSを燃料とし、発電容量5万kW、和歌山県御坊市日高港工業用地内で2025年8月運転開始。FIP制度への移行申請は受理されており、2026年4月からFIP制度に基づく事業運営とJR東日本向けの環境価値供給を開始する予定。約15万t/年のCO₂削減（JR東日本におけるCO₂排出量の約8%）に相当することとなり、この規模のバーチャルPPAは、単独需要家としては全国最大【大阪ガス（株）：2025/10/28】
<https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2025/179439558387.html>

■（株）薪来歩（マキライフ、滋賀）、薪とペレットを兼用できる次世代型ハイブリッドストーブの販売を2025年秋から本格的に開始。薪ストーブの本場デンマークの人気メーカー「Aduro（アデュロ）」が開発した全6種類の最新モデル。薪燃焼の場合は停電時でも使用でき、ペレット燃焼の場合は専用アプリを使い、遠隔操作で帰宅前に部屋を暖めたりリモコン代わりに使

用し、火力調整することも可能。同社が欧州から直輸入して販売・施工まで手掛けている。滋賀県高島市で薪ストーブのある暮らしを体感できる宿泊施設「志我の里（しがのさと）」を運営しており、ハイブリッドストーブも体験可【PR TIMES：2025/10/28、（株）薪来歩】

<https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000167847.html>

<https://makilife.biz/contents/category/hybrid/>

■和歌山県御坊市の日高港工業団地に建設され、2025年8月21日から営業運転を始めた和歌山御坊バイオマス発電所（発電容量5万kW）が、10月末に竣工式を開催。日高港工業団地は2004年、県が港湾内を埋め立てて造成。水深12mの公共バースを備え、阪和自動車道・御坊インターチェンジから約5分という海上、陸上アクセスの良さを売りに、製造業や倉庫業をターゲットとして18区画の分譲・賃貸を開始。その後景気低迷に加え、2011年の東日本大震災の影響等で20年近く“塩漬け”になるなど企業誘致に苦しんだが、発電所を運営する和歌山御坊バイオマス発電合同会社が工業団地の7割強を占める約7万m²のバイオマス発電所進出を2022年に決定。現在残り1区画も売却先企業が決まる見通しで、地域の活性化が期待されている。また燃料（木質ペレット、PKS）の輸入について、日高港は関税法上外国貿易船が直接入港できないが、発電所建設を契機に県が国に要望。税関手続きなどを行うための制限エリアを岸壁に特設することで、特例的に入港が可能になった。県港湾空港局によると、公共バースでは全国初の事例という【紀州新聞：2025/10/31、d menuニュース：2025/11/17】

<https://kisyushimbun.hatenablog.jp/entry/2025/10/31/083000>

https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/sankei/business/sankei-economy_business_G47QYF6KXZNF3ECZD5ZVTFKXME

■自動車向け印刷製品や化成品などの総合商社である（株）梶屋（愛知）が、農業関連分野に進出へ。徳島県内のスタートアップと連携し、イネ科植物「エリアンサス」を原料にペレット化したバイオマス燃料の販売等に乗り出す。自動車産業で培った販売ノウハウなどを生かし、新たな環境価値を創出するとともに、耕作放棄地や放置竹林などの社会課題解決にもつなげていく【中部経済新聞：2025/11/05】

<https://www.chukei->

news.co.jp/news/2025/11/05/OK0002511050101_01/

■田原バイオマスパワー合同会社（愛知）、11月4日に「田原バイオマス発電所」の竣工式を開催。同社はJFEエンジニアリング（株）（40%）、中部電力（株）（40%）、東邦ガス（株）（10%）、東京センチュリー（株）（10%）の4社が出資。発電所は2022年6月1日に建設工事に着手し、2025年9月1日に営業運転を開始した。発電出力112,000kW、想定年間発電電力量約7.7億kWh（一般家庭約25万世帯分に相当）の国内最大級のバイオマス発電所。燃料となる木質ペレットは東南アジアから42万～44万t/年調達。生み出した電力はFITで中部電力パワーグリッド（株）（愛知）に売電する【中日BIZナビ：2025/11/05、中部電力（株）、日本経済新聞：2025/09/08】

<https://biz.chunichi.co.jp/news/article/10/116625/>

<https://www.chuden.co.jp/energy/renew/topics/tahara02.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UC086BU0Y5A900C2000000/>

■認定特定非営利活動法人FoE Japan（東京）およびインドネシアの環境NGOらが、阪和興業（株）（東京）に対し、インドネシアからの木質ペレット輸入を中止するよう求める要請書および質問書を提出。提出団体はFoE Japanの他、現地で活動するインドネシア環境フォーラム（WALHI）／FoE インドネシア、WALHIゴロンタロ、Forest Watch Indonesia、Trend Asiaの計5団体。インドネシアでは、木質ペレット生産の拡大を目的とした「エネルギー産業用造林（HTE）」が急速に広がっており、2019年には13のHTEの造成が開始され、2025年には57箇所に拡大。現在130万haもの森林がHTEに。木質ペレット生産のために天然林の伐採や単一樹種による人工林化が進行し、生物多様性の喪失、洪水リスクの増大、地域住民の生活や土地利用への深刻な影響が懸念されている。とりわけスラウェシ島北部ゴロンタロ州の状況は深刻で、同州から多くの木質ペレットを輸入している阪和興業に対し、これ以上インドネシアの天然林を破壊することがないよう木質ペレットの輸入中止を求めるとともに、調達方針やデューデリジェンスの内容に関する情報開示を求めている。【認定特定非営利活動法人FoE Japan：2025/11/06】

<https://foejapan.org/issue/20251106/26539/>

■インドネシア・ゴロンタロ州の森林破壊問題が議論される中、同国のジャカルタで開催された政策フォーラムでインドネシアのバイオマス生産者と林業関係者が木質ペレットの輸出について議論。Indonesian Biomass Energy Producers Association (APREBI)は、「同国のバイオマス産業が森林破壊ではなく、政府のSVLK(木材合法性・持続可能性検証システム)認証制度に基づく合法的かつ持続可能な手法によって成長している」と強調。「木質ペレット生産者は、産業用森林プランテーション(HTI)内で操業し、持続可能性基準を遵守している。数兆ルピアが投資されている現在の状況で、違法調達によって自社の信頼性を危険に晒す企業など存在しない」と述べた。一方、阪和興業(株)(東京)は、インドネシア森林庁、インドネシア国内でペレット事業を手掛けるBiomass Jaya Abadi(BJA)社を日本に招き、都内で「インドネシアの森林管理政策と持続可能な木質バイオマスエネルギー事業に関して」と題するセミナーを開催(11月12日)。インドネシア森林庁は保護林での伐採は禁止されており、生産林での伐採についても厳しい条件が付与されているこ

と、BJA社は同社の事業内容、ペレット工場の様子や持続可能性実現のための取り組み等について説明した【RP Newswire、リム情報開発(株):2025/11/12】
<https://jp.prnasia.com/story/125312621-3.shtml>
<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1813795.html>

■デンマークの不定期船大手ノルデン、米国の木質ペレット生産大手エンビバと2年間にわたるCOA(数量輸送契約)を締結したと発表(11月7日)。この契約は、2012年から続いている両社のCOAを延長するもの。ノルデンは2026年からの契約期間中、米国東海岸およびメキシコ湾岸で木質ペレットを積み込み、複数のハンディサイズ貨物を英国およびヨーロッパのエンビバの顧客へ輸送する。ハンディサイズ船の全長は170~185m、幅27~31m、木質ペレット積載量は27,000~33,000t【日本海事新聞:2025/11/17、NORDEN:2025/11/05】

<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=310127>
<https://norden.com/article/7401>

3. イベント情報(国内)

◎:木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■CMT「DeCarbon Tokyo 2025」

2025年12月3日(水)~4日(木)

ヒルトン東京(東京都新宿区)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=251219&>

■埼玉県環境科学国際センター「気候変動適応サイエンスカフェ『地球温暖化や海洋酸性化が海洋生物や地域社会に及ぼす影響とその対策～日本の海に起きている異変～』」

2025年12月4日(木)

オンライン(Microsoft Teams)

https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/post/information/20251001/science_cafe_251204/

■IGES「COP30速報ウェビナー「ブラジルでの議論と成果」

2025年12月5日(金)

オンライン

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20251205>

■SHINKIBA CREATIBE HUB 実行委員会「SHINKIBA CREATIVE HUB」

2025年12月11日(木)~13日(金)

東京都江東区新木場・辰巳エリア

<https://shinkiba-creative-hub.com/>

■IGES/GISPRI共催「COP30報告シンポジウム」

2025年12月12日(金)

オンライン

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20251212>

■檜原村薪づくりイベント事務局「檜原村で薪づくり体験」

2025年12月13日(土)

東京都西多摩郡檜原村

<https://www.vill.hinohara.tokyo.jp/0000000865.html>

■WWFジャパン「【中高生向けワークショップ】考え方!私たちの未来と再生可能エネルギー」

2025年12月13日(土)

CO☆PIT(東京都港区)

<https://www.wwf.or.jp/event/organize/6094.html>

■（一社）丹波森林 LSC 「一般社団法人 丹波森林 LSC キックオフイベント」

2025 年 12 月 15 日（月）

産総研・関西経済連合会 うめきたサイト（大阪府大阪市北区）

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000171272.html>

ml

■Future Earth 国際事務局 日本ハブ、長崎大学グローバルリスク研究センター「「気候変動について今伝えたい、10 の重要なメッセージ」～ 10 NEW INSIGHTS IN CLIMATE SCIENCE 2025/2026 ～」

2025 年 12 月 15 日（月）

長崎大学中部講堂（長崎県長崎市）/ Webinar オンライン

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20251215>

◎山形県鶴岡市「鶴岡市木質バイオマス熱利用勉強会・見学会」

2025 年 12 月 17 日（水）

鶴岡市朝日庁舎チップボイラ、羽黒庁舎ペレットボイラ（山形県鶴岡市）

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/forestry/nousan0120251007.html>

※対象は市内事業者

■紫波グリーンエネルギー（株）「R7 年度「木質バイオマス熱電併給システム普及促進研修会（第 2 回・技術編）」

2025 年 12 月 18 日（木）

紫波町近郊

<https://shiwa-green.co.jp/news/r7chpworkshopsiivate.html>

■鹿児島県環境林務部環境林務課地球温暖化対策室「カーボンニュートラルフェア in かごしま」

2025 年 12 月 20 日（土）～21 日（日）

カクイックス交流センター（6F ギャラリー・県政記念公園）（鹿児島県鹿児島市）

<https://kagoshima-cn-fes.com/>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク第 233 回研究会「竹イノベーション研究会の活動内容、最近の竹利用事情について（仮題）」

2025 年 12 月 25 日（水）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）/Zoom オンライン

<https://www.npobin.net/>

■WWF ジャパン「【中高生向けワークショップ】考え方！私たちの未来と再生可能エネルギー」

2026 年 1 月 24 日（土）

CO☆PIT（東京都港区）

<https://www.wwf.or.jp/event/organize/6094.html>

■WOOD コレクション実行委員会、等「「WOOD コレクション（モクコレ）2026」

【リアル展】2026 年 2 月 12 日（木）～13 日（金）

【オンライン展】2026 年 1 月 19 日（月）～2026 年 2 月 27 日（金）

東京ビッグサイト西 1・2 ホール（東京都江東区）

<https://www.mokucolle.com/>

■紫波グリーンエネルギー（株）「R7 年度「木質バイオマス熱電併給システム普及促進研修会（第 3 回・事業化編）」

2025 年 2 月 18 日（水）

岩手県久慈市山形町

<https://shiwa-green.co.jp/news/r7chpworkshopsiivate.html>

■（一社）日本森林学会「第 137 回日本森林学会大会」

2026 年 3 月 16 日（月）～3 月 19 日（木）

つくば国際会議場と筑波大学（茨城県つくば市）

<https://www.forestry.jp/meeting/>

■RX Japan（株）SMART ENERGY WEEK 春 2026

2026 年 3 月 17 日（火）～19 日（木）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/spring/ja-ja.html>

■CMT 「3rd Annual BIOINNOVATION」

2026 年 5 月 12 日（火）～14 日（木）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=260501&>

■CMT 「3rd BIO FUELS & CARBON」

2026年5月12日（火）～14日（木）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=260501&>

◎CMT 「16th BIOMASS PELLETS TRADE ASIA」

2026年5月12日（火）～14日（木）

東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=260501&>

■日報ビジネス（株）「2026NEW 環境展／2026 地球温暖化防

止展」

2026年5月20日（水）～22日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.n-expo.jp/>

◎ペレットクラブ「Bioenergy 2026」

2026年5月20日（水）～22日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）NEW環境展内

4. イベント情報（海外）

[conference-2026/](#)

■European Biocarbon Summit 2025

2025年12月9日（火）～10日（水）

アムステルダム（オランダ）

<https://www.hawkinswright.com/european-biocarbon-summit/home>

■bio 360

2026年2月11日（水）～12日（木）

ナント（フランス）

<https://www.bio360expo.com/Page/1259/program-2026>

■10th Biogas Congress

2025年12月16日（火）～17日（水）

ワルシャワ（ポーランド）

<https://magazynbiomasa.pl/biogas-congress/>

■DeCarbon Copenhagen 2026

2026年2月24日（火）～26日（木）

コペンハーゲン（デンマーク）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=260203&>

■8th Central European Biomass Conference

2026年1月21日（水）～23日（金）

グラーツ（オーストリア）

https://www.cebc.at/8_mitteleuropaeische_biomassekonferenz_cebc_2026?_lang=englisch

◎9th Annual Biomass Trade & Power Europe 2026

2025年2月24日（火）～25日（水）

コペンハーゲン（デンマーク）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=260203&>

■Argus Biomass Asia Conference

2026年2月2日（月）～4日（水）

シンガポール（シンガポール）

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-asia-conference>

■World Sustainable Energy Days

2026年2月24日（火）～27日（金）

ヴェルス（オーストリア）

<https://www.wsed.at/>

◎European Pellet Conference 2026

2026年2月25日（水）

ヴェルス（オーストリア）

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference-2026>

◎Nordic Pellets Conference 2026

2026年2月3日（火）～4日（水）

ヨーテボリ（スウェーデン）

<https://www.svebio.se/en/venemang/nordic-pellets->

©European Pellet Forum 2026

2026年2月27日（金）

ベローナ（イタリア）

<https://pellet-forum.eu/>

■HOLZ-HANDWERK 2026

2026年3月24日（火）～27日（金）

ニュルンベルク（ドイツ）

<https://www.holz-handwerk.de/en>

■FORST LIVE

2026年3月27日（金）～29日（日）

オッフェンブルク（ドイツ）

<https://www.forst-live.de/en>

■2026 International Biomass Conference & Expo

2026年3月31日（火）～4月2日（木）

テネシー州ナッシュビル（USA）

<https://2025-ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Sustainable Aviation Fuels Summit

2026年4月14日（火）～15日（水）

ブリュッセル（ベルギー）

https://biofuels-news.com/conference/sustainableaviationfuels/?_gl=1%2A136ynwf%2A_gcl_au%2AODE5MjY40TlwLjE3NTkyMTI2MDI

■Svebios årsstämma och värmteskonferens 2026

2026年4月16日（木）

ストックホルム（スウェーデン）

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebios-arsstamma-och-varmoteskonferens-2026/>

■Argus Biomass Conference

2026年4月21日（火）～23日（木）

ロンドン（UK）

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-conference>

■International Exhibition & Summit on Bioenergy Value Chain

2026年5月7日（木）～9日（土）

ニューデリー（インド）

<https://biogas-india.com/international-summit-on-bioenergy-value-chain/>

■BIOGAS AMERICA

2026年5月18日（月）～21日（木）

ミシガン州デトロイト（USA）

<https://biogasamericas.com/>

■Sustainable Fuels Summit: SAF, Renewable Diesel and Biodiesel

2026年6月2日（火）～4日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Sustainable_Fuels_Summit_SAF_Renewable_Diesel_Biodiesel

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2026年6月2日（火）～4日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

<https://2026-few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■Carbon Capture & Storage Summit

2026年6月2日（火）～4日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit

■OLEOFUELS 2026

2026年6月10日（水）～11日（木）

セビリア（スペイン）

<https://www.wplgroup.com/aci/event/oleofuels/>

■Bio 360 Africa

2026年6月17日（水）～18日（木）

ヨハネスブルグ（南アフリカ共和国）

<https://www.bio360-africa.com/lang/en>

■Carbon Capture & Storage Summit 2026

2026年6月24日（水）～26日（金）

ミズーリ州セントルイス（USA）

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=1>

[Carbon Capture Storage Summit](#)

■INTERFORST 2026

2026年10月15日（木）～18日（日）

ミュンヘン（ドイツ）

<https://interforst.com/en/>

■LIGNA 2027

2027年5月10日（月）～14日（金）

ハノーバー（ドイツ）

<https://www.ligna.de/en/>

5. 2025年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報（都道府県順）

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【宮城県】

◆丸森町「令和7年度丸森町地球温暖化対策促進事業補助金」

<https://www.town.marumori.miagi.jp/life/detail.php?content=1584>

【山形県】

◇長井市「令和7年度長井市地域脱炭素プラン推進事業費補助金」

<https://www.city.nagai.yamagata.jp/boshu/14038.html>

◇舟形町「舟形町再生可能エネルギー設備等導入設置費補助金」

<https://www.town.funagata.yamagata.jp/s007/sugata/060/020/210/20200117011000.html>

◆遊佐町「令和7年度遊佐町再生可能エネルギー設備導入事業費補助金」

<https://www.town.yuza.yamagata.jp/archive/contents-29>

【千葉県】

◇いすみ市「いすみ市木質バイオマス活用事業補助金（令和7年度）」

https://www.city.isumi.lg.jp/soshikikarasagasu/norinka/choju_satoyamataisakushitsu/1/1/1217.html

【新潟県】

◆十日町市「十日町市再生可能エネルギー活用促進費補助金」

<https://www.city.tokamachi.lg.jp/soshiki/kankyoenergybu/kankyoiseika/3/gyomu/9684.html>

【山梨県】

◇道志村「道志村エコライフ促進事業助成金」

http://www.vill.doshi.lg.jp/ka/info.php?if_id=181

【鳥取県】

◇大山町「【令和7年度】大山町家庭用発電設備等導入推進補助金」

<https://www.daisen.jp/1/10/2/u735/z398/>

【島根県】

◇奥出雲町「令和7年度奥出雲町脱炭素の暮らしづくり推進設備導入促進事業奨励金」

<https://www.town.okuizumo.shimane.jp/www/contents/1743496685411/index.html>

6. 公募等情報（締切順）

■エフピコ環境基金事務局「エフピコ環境基金 2026 年度の募集」

募集期間 2025 年 10 月 1 日（水）～12 月 15 日（月）

https://www.fpco.jp/esg/environmenteffort/environmentalfund/environmentalfund_recruitment.html

■NEDO 「2025 年度～2026 年度 脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム及び戦略的省エネルギー技術革新プログラムの成果把握及び分析業務」の公募について

公募期間 2025 年 11 月 28 日（金）～12 月 15 日（月）

https://www.nedo.go.jp/koubo/SM2_100001_00100.html

■広島県「令和 7 年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 2025 年 4 月 7 日（月）～12 月 19 日（金）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojinkin.html>

■広島県呉市「呉市脱炭素化設備等導入補助金（設備導入補助）」

申請受付期間 2025 年 5 月 27 日（火）～12 月 25 日（木）

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/40/cn-shien004.html>

■兵庫県高砂市「高砂市中小事業者脱炭素化設備等導入促進補助金」

受付期間 2025 年 5 月 1 日（月）～12 月 26 日（金）

<https://www.city.takasago.lg.jp/soshikikarasagasu/kankyoiseiskuka/4/hojyokinn/10321.html>

■（一社）環境共創イニシアチブ「令和 6 年度補正予算 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業（3 次公募）」複数年度事業

公募期間 2025 年 8 月 13 日（水）～2026 年 1 月 13 日（火）

<https://sii.or.jp/koujou06r/overview3.html>

■（一社）低炭素投資促進機構「令和 7 年度温暖化対策促進事業費補助金（トランジション・ファイナンス推進事業）」

公募期間 2025 年 6 月 13 日（金）～2026 年 1 月 30 日（金）

<https://www.teitanso.or.jp/tf7/>

■高知県「令和 7 年度高知県木質資源利用促進事業費補助金の募集について」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024051000091/>

■富山県南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/soshiki/ecovillage/2/1/761.html>

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共的施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kancyou/kj00006264.html>